

令和7年度「日本史探究」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
日本史探究		選択	2	普通科文型・G C科
教科書	教科書：『詳説日本史』（山川出版社）			
副教材等	副教材：『図説日本史通覧』（帝国書院）			

1 学習目標

原始・古代～現代の日本の歴史について、現代社会の諸課題や諸言説との関連から歴史的事象への理解を深める。また、歴史的事象を、当時の文脈に立ちながら、背景や条件、「ある人物」の意図等から考察できる歴史的思考力を養う。特に、過去の生活や文化に興味を持ちつつ、現代的諸現象・諸言説について、我が国の歴史を射程にその「来歴」を踏まえ、同時に「類推」材料と位置づけながら、意見を形成することができる、民主主義社会に生きる主権者としての資質を養う。

2 学習概要

歴史を総合的かつ立体的に見るためには、基礎として個別的な歴史的知識を知っていることは必要なことであり、また重要なことである。加えて、個別的な歴史的知識を理解した上で、歴史的諸事象の原因（＝なぜ？）、当該地域や時代・現代社会に及ぼした結果・影響（＝どのように？）を考察することで、歴史的思考力が養われていく。履修に当たっては、「一問一答」的な知識に終始すること無く、当該時代の背景や他の歴史的事象との関連にまで目を向けなければならない。

また、現在や今後の生活を通して、社会的な諸言説や諸現象、諸場面において「歴史＝時間軸」という視点から「なぜ？」を問うてほしい。何よりも「現地を見る」ことで、歴史科目で学んだ「現在」という視点のみではみえない歴史を実感してほしい。我々がある同じ「事象」を見る際、歴史を知らずにその「事象」を見る人と、歴史という文脈・世界を感じつつその「事象」を見る人では、当然「見える世界」が異なってくる。授業、ひいては日常生活を通して「知る」ことの面白さを実感してほしい。現代社会に「見えないものを見る」力を養うことが「社会科」の意義である。

3 学習方法

授業は講義形式を中心とするが、資料等（図・表・歴史資料等）を活用し、必要に応じてペアワークを通して、自ら考察し探究する場面を設ける。特に、授業では、積極的に既習事項との繋がりや関係性を「振り返り」「広げる」時間を設ける。この活動を通して、自らの「学び方」を身につけ、様々な場面で、自分自身で「振り返り」「広げる」ことができる主権者になってほしい。とりわけ、授業内容に関して積極的にメモをとる姿勢を期待している。

4 評価について

（1）評価方法

「知識・技能（①）」、「思考力・判断力・表現力（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

「知識・技能（①）」：定期試験・ワークシートなど

「思考力・判断力・表現力（②）」：定期考査・ワークシート・発問評価など

「主体的に学習に取り組む態度（③）」：授業態度・提出課題など。

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

（2）評価規準

	知識・技能（①）	思考力・判断力・表現力（②）	主体的に学習に取り組む態度（③）
評価基準	日本史に係る諸事象について、歴史的な文脈を踏まえ、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解すると共に、諸資料から日本史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけることができる。	日本史に係る諸事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。また、歴史上及び現代の諸課題を把握し、解決を視野に入れ構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	日本史に係る歴史的・現代的諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめごと）	考查等
一 学 期	第 1 章 日本文化のあけぼの	○ 「日本史探究」を学ぶ意義について理解する。	1 学期中間考查
	第 2 章 古墳とヤマト政権	○ 旧石器・縄文文化の社会を理解し、考古学の成果により教科書叙述が成立していることに気づく。	
	第 3 章 律令国家の形成	○ 縄文文化と弥生文化を比較・探究し、稲作の伝播が「小国」の形成をもたらしたことを理解する。	
	第 4 章 貴族政治の展開	○ 古墳時代前期～終期における国内政治・対外関係・文化を比較・探究・考察し、差異を表現する。 ○ ヤマト政権内の構想や対外関係に着目して、中央集権国家体制が萌芽したことを理解する。 ○ 律令国家が成立するまでの政治過程と、律令に基づく国内統治体制について理解する。 ○ 律令体制の完成期である奈良時代を、多面的・多角的に捉えて考察する。 ○ 白鳳文化の形成過程と、天平文化の政治性、国際性や仏教の展開に着目して、古代国家を理解する。 ○ 天皇権力再強化の背景に着目し、平安時代初期の政治の推移と弘仁・貞観文化を理解する。 ○ 他氏排斥、外戚政策を中心に台頭した藤原北家を中心に、摂関世辞の成立過程を考察する。 ○ 唐文化の消化の上に国風文化が成立し、末法思想を前提として国風文化が展開されたことを理解する。	
二 学 期	第 5 章 院政と武士の躍進	○ 中央集権国家の崩壊が地方政治に与えた影響と、武士の成長過程について源氏を中心に理解する。	2 学期中間考查
	第 6 章 武家政権の成立	○ 後三条天皇政策が摂関政治を終焉に導いたことと院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。	
	第 7 章 武家社会の成長	○ 平氏台頭の契機と平氏政権の特性について、国際関係・経済・文化への対応に着目し考察する。 ○ 鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、その過程を考察し、根拠に基づいて表現する。 ○ 承久の乱の意義に着目しつつ、鎌倉幕府が將軍親裁から御家人合議制へ推移したことを理解する。	
	第 8 章 近世の幕開け	○ 蒙古襲来を背景に得宗専制政治が確立し、経済や社会を踏まえ幕府政治が衰退したことを理解する。 ○ 社会背景や旧仏教との差異に着目し、易行・選択・専修を特徴とする鎌倉仏教の成立を理解する。 ○ 南北朝の動乱から室町幕府の成立過程、東アジアとの交流と中世日本社会への影響について理解する。 ○ 自治に基づく惣村成立と一揆の動向と諸産業の発達について、室町時代を幅広く理解する。 ○ 南北朝文化、北山文化、東山文化の特徴を、政治的背景や下剋上の風潮に着目し考察する。 ○ 応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や都市を地理的条件と関連付け考察する。 ○ 大航海時代という世界史的背景を踏まえ、織豊政権の特色と意義、後世への影響を理解する。 ○ 新興大名や豪商の精神を反映した桃山文化について、時代的背景を踏まえて考察する。	
三 学 期	第 9 章 幕藩体制の成立と展開	○ 江戸幕府の幕藩体制成立と武断政治の特徴、「四つの口」論に基づく「鎖国」政策の意義を理解する。 ○ 幕藩体制確立期の経済・社会を村落支配の観点から、幕藩体制における位置づけに着目し考察する。 ○ 17 世紀後半から 18 世紀前半までの幕府政治を「文治政治」への転換をキーワードとして考察する。	学年末考查

1 学期期末考查

2 学期期末考查

